

全国 ESD コンソーシアム/ ステークホルダー円卓会議 2025 を開催

国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学

1. はじめに

奈良教育大学は 2007 年に日本の大学としては最初にユネスコスクールに加盟登録して以来、ESD を基軸に据えた教員養成に取り組んでいます。2011 年 3 月に持続発展文化遺産教育研究センター（当時、文部科学省では ESD を持続発展教育と訳していました）を設置、2015 年には近畿 ESD コンソーシアムを組織、2022 年 4 月には、ESD・SDGs センターを設立しました。

2. 奈良教育大学の 3 つの柱

1. 人・環境・文化遺産との対話を通じた教育の追究
2. 持続可能な社会づくりに貢献できる教員の育成
3. 教員養成と教員研修の融合

本学では、教員を目指す全学生が ESD についての知識、指導方法を身に付けることができるよう取り組んでいます。

3. 全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー円卓会議 2025

国立大学法人奈良国立大学機構 奈良教育大学 ESD・SDGs センターは、去る 2 月 22 日に「全国 ESD コンソーシアム/ステークホルダー円卓会議 2025」を開催しました。本会議は、多様な主体が参画するネットワークの形成を通じて、これまでの ESD の取組を発展させることで、SDGs 達成に資する ESD（ESD for 2030）を一層推進する全国的な ESD プラットフォームの構築を図ることを目的としています。会議には、各地域で活動する 9 つの ESD コンソーシアム、全国レベルで活動する 9 つの ESD ステークホルダーおよび会場とオンラインの一般参加者を合わせた約 100 名が参加しました。

午前の部、冒頭の ESD コンソーシアム円卓会議では、9 つの ESD コンソーシアムによる実践発表が行われました。続いて本村宏明 文部科学省国際統括官付国際戦略企画官による「ESD の推進にかかる文部科学省の取り組みについて」と題した講演が行われ、国際レベルでの文部科学省の ESD の推進施策や国内の ESD の動向について解説いただきました。その後、各コンソーシアムの成果や課題の共有と協働への取組、そして文部科学省の施策について意見交換が行われました。



【円卓会議では積極的な意見交流がなされました】

午後の部では、まず黒部一隆 環境省大臣官房環境教育推進室長による「環境教育・ESD の最新動向等について」と題した講演が行われ、環境教育における ESD の必要性和課題について、また環境

教育の最新の動向や方向性について提言いただきました。続いて7つのESDステークホルダーから各取組の紹介後、それぞれの強みや課題、今後の連携の展望について議論が交わされました。

その後、総合討論として、コンソーシアムとステークホルダー双方を交え、各主体のESDの取組や情報の一元的な集積と共有、世代間・民間との連携や資金獲得などの具体的な取組を通じて重層的なESDプラットフォームの構築に向けた闊達な議論が行われました。最後に、引き続き各ESD関係機関・団体同士の連携強化を図り、日本のESDの更なる深化や国際展開に向け協働していくことを確認し閉会しました。

4. ESD子どもフォーラム

1月12日(日)・13日(月・祝)に近畿ESDコンソーシアム成果発表会を開催し、一日目の午前中に、ESDに取り組んだ児童生徒によるESD子どもフォーラムを実施しました。今回は福岡市立小呂小学校・草津市立老上中学校・白浜町立白浜中学校・天理市立福住小中学校の児童生徒が成果を発表し、本学のユネスコクラブの司会のもと、意見交流も行いました。



「世間よし、琵琶湖よし、みんなよし」というスローガンの下での取り組み、観光地でのガチャ設置による活動資金や寄付金の獲得、持続可能な島を目的とした「しまごはん」の紹介、ヤマトサンショウウオの保全活動や炭づくりといった地域素材を活用した **only one** の実践が発表されました。実践を通して、地域のことを知り、地域人材との協働によって、地域アイデンティティの育成につながっていると感じました。多くの地域の人々と関わることは、地域の人々のウェルビーイングを高めることにも結びつくと思います。

5. おわりに

ESDを適切に指導できる教員の授業力向上を目的に、2016年度からESDティーチャープログラムに取り組んでまいりました。ESDやSDGsをテーマとした5回の研修すべてに参加していただき、ESD学習指導案を作成していただくという内容です。単に座って聞いているだけではなく、ESD単元構想案や指導案を作成し、相互検討を行うなど、ハードな研修ですが、必ず実力はアップします。

また、ESDティーチャーの上位にESDマスター、ESDスペシャリストといったレベルがあり、マスターやスペシャリストの方々を中心にESD研究会を各地に設立していただくことを目的としています。

これまでのESDティーチャープログラム認定者数は、以下の表の通りです。

学生のティーチャー	現職のティーチャー	現職のマスター	現職のスペシャリスト
75名	556名	103名	39名

今後もESDが指導できる教員の育成に取り組んでいきます。ESDティーチャーに挑戦してみようという先生方・教育委員会は、本学ESD・SDGsセンターまでご連絡いただければと思います。